

資料 2 地区、ブロックについて

*地区、ブロックの役割について

【地区】

教会では教区が目指すビジョン計画を確認、共有し、地区の現状にある小教区が一つの心で歩めるように奉仕する。地区の規模として少なくとも 10 前後の小教区を考えたのは、

- ① 教区のビジョンに基づいて、地区としての優先課題や方向性である宣教司牧構想を定める場としてふさわしい規模である。
- ② 3～4 程度の小教区が集まる規模で地区を形成すると、そこに集まる人材によってかなりの性出てくると予想される。教区の目指す方向性が小教区の地区が多くなることによって、ばらばらになる可能性が出てくる。
- ③ 地区レベルで可能となるであろう特に養成関係のプログラム作りと実施は小規模では実現できない。

*大阪教区には現在、以下の 8 地区がある。姫路地区、神戸地区、阪神地区、北摂地区、大阪北地区、大阪南地区、岸和田地区、和歌山地区。

【ブロック】

地域で方向づけられた宣教司牧構想実現のための優先課題などを具体的に実現していく場は小教区であるが、人材交流や具体的協力が必要な場合、3～4 の小教区で協力し合うことは大変有効である。そのような協力関係で結ばれる小教区グループをブロックと呼ぶ。ブロックは小教区がより豊かに宣教司牧を行うために自由に造り、また組み換えることもできる。また近い将来、司祭の高齢化や現象化に伴い、今までのような「1 小教区に 1 司祭」ではなく、ブロックに 1～2 人の司祭という形が主流になると考えられる。そうした事態をマイナスと捉えるのではなく、むしろ信徒の役割の重要性がより意識化され、また小教区を超えた司祭と信徒、あるいは信徒同士の協力体制の充実が一層期待される。